

令和6年度第2回 聖籠町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

日 時	令和6年9月3日(火) 14:00~16:00
場 所	聖籠町役場3階 大会議室
出席委員	鷺見委員(会長)、伊藤委員、入山委員、笠井委員、小林委員、齋藤委員、佐藤委員、高橋委員、手嶋委員、中林委員、中村委員、夏井委員、二宮委員、渡邊委員
事務局	総合政策課:小林課長補佐、井上主任、宮森主事
次 第	1 開 会 2 議 事 (1) 町の人口動態の状況について (2) 聖籠町人口ビジョンの見直しについて (3) 町民アンケート結果について 3 閉 会

議事要旨

議事(1) 町の人口動態の状況について

○ 事務局から資料1「町の人口動態の状況について」に沿って説明

委 員 大学進学で町を離れた後にUターンで戻って来る方の人数は把握しているか?

事務局 Uターン者に限定した数字は把握していないが、全体の傾向としては、10代後半で転出超過数が最大化し、20代で転入超過に転じ、30代中盤に向けて徐々に増加していく傾向となっている。

会 長 この後の議事の町民アンケート結果において、居住年数や出身地等に関する設問があるため、そこでもUターンの実態が読み取れると思われる。

委 員 町の人口は緩やかに増加傾向とのことであるが、外国人労働者による影響が大きいのではないかと考える。外国人を除いた日本人の人口では、減少の局面に突入しているという認識でよいか?

事務局 ご指摘のとおり。5年ほど前から外国人の増加が傾向として強く出ている。日本人人口は減少傾向だが、近隣自治体と比べるとペースは緩やかである。

会 長 社会増の県内自治体は外国人が転入超過の傾向で、聖籠町も同様の傾向となっている。

議事 (2) 聖籠町人口ビジョンの見直しについて

○ 事務局から資料2「聖籠町人口ビジョンの見直しについて」に沿って説明

委員 人口ビジョンの推計に当たり、結婚の有無は反映されているのか？

事務局 今回の推計は、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）。の推計を用いている。結婚の有無については、人口推計の計算上、直接的には変数に組み込まれておらず、合計特殊出生率と子どもを産む年代の女性の人数を変数として、人口推計の一部である出生数が計算されている。

会長 人口推計の変数の一つである出生率は過去のトレンドから計算されているものであり、結婚の有無もそこに組み込まれていると解することができる点を補足させていただく。

委員 ご説明いただいた人口推計に加えて、次の議事である町民アンケートの結果を踏まえて、問題点を探り解決策を検討するという流れで進んでいく認識でよいか？

事務局 ご指摘のとおり。

委員 女性の数も重要であるとの説明があったと思うが、昨今では男女問わず結婚への価値観などが変化してきているため、町民アンケートでそういったところも注意して見ていく必要があると考える。

会長 事務局から説明があった人口推計は、今取り組んでいる状況をこのまま続けていく前提での推計であり、何もしないで実現できるものではない。結婚に対する価値観の変化など、今後の社会情勢の変化によっては維持していくことは決して簡単なことではない点を、ご留意いただきたい。

会長 事務局から説明のとおり、社人研推計準拠で2070年10,610人という人口ビジョンを、この会議で議論していく上でのベースとして設定することについてお諮りしたい。

(一同異議なし)

議事 (3) 町民アンケート結果について

○ 事務局から資料3「居住・幸福度等に関するアンケート調査報告書」に沿って説明

委員 アンケートの中で「公園や児童館などの子どもを遊ばせられる環境が十分でない」という意見が出ていた。現在、町では屋内遊び場を検討しているところかと思うが、そのような施設が整備できれば、アンケート結果の改善も見込めるのではないかと感じた。

その他、結婚している方のうち、特に女性に着目すると、子育てに関する不安が多いという結果となっており、その辺りを次期戦略で取り組む施策として町で検討していただきたい。

事務局 屋内遊び場の整備については、昨年度から検討委員会を立ち上げ、そこで実施したアンケートにおいて、約7割以上の町民から「整備は必要である」との回答を得ている。現在、検討委員会にて施設の規模や内容等の検討を進めているところである。

また、今回のアンケートのその他の意見で、「小児科が少ない」、「薬局が少ない」、「日曜保育をやってほしい」など、子育てに関して多く要望をいただいております、対応策を検討する必要があると考えています。

委員 アンケートの34ページの「住みやすくなる、戻ってきたいと思う環境や支援」という設問で、「買い物や娯楽の充実」という回答があるが、買い物は日常生活の利便性に関すること、娯楽はその時々トレンドや年代によって求められるものが全く異なることを踏まえて、施策を検討していく上では、両者は分けて検討すべきと考える。

また、燕市の「こどもの森」という施設は、保育士などを配置し、子育てに関する悩みを相談できる体制が整備されている。ハード面だけではなく、ソフト面への配慮も検討していただきたい。

委員 アンケートの回答率が前回調査と比較し下がっていることについて、何点か伺いたい。

調査期間は令和6年7月5日から7月31日とのことだが、前回調査は同時期に実施しているのか？

また、今回の調査期間はなぜこの時期に設定したのか？個人的な意見であるが、8月に実施した方がお盆休みなどで時間的に余裕があることから若者の回答率が上がるのではないかと考える。

事務局 前回調査は冬に実施している。また、なぜこの時期に設定したかという点については、本会議に合わせて逆算して調査時期を設定したものである。ご指摘の若い人の生活サイクルなどは、これまで考慮していなかったため、今後の参考としたい。

委員 アンケートの63ページの「あるといいと思うデジタル行政サービス等」の回答の一つであるコワーキングスペースの整備については、全国的にも整備が推奨されているものであり、設備費も少額であるためぜひ検討していただきたい。コワーキングスペースが整備できると、高齢者等へのスマホ・パソコン教室などでも活用できる。

委 員 アンケートの自由記述の意見にも掲載されているが、聖籠町は若い方の転入者が多いという状況を踏まえ、起業家への支援に力を入れていただきたい。

またコワーキングスペースについては、ここ数年で増えている印象があるが、あまり利用されていない施設も見受けられる。整備した後は、具体的な利用方法を発信していくことも重要と考える。

(本日の議事のまとめ)

会 長 本日の議事では、人口ビジョン 2025 として 2070 年で人口 10,610 人を目標とすることをご審議いただいた。この人口ビジョンは、自然動態では出生率が 1.8 程度で推移し、社会動態では 2030 年以降は社会増が継続していくことが前提となっている。昨今の情勢を考えると両者ともに決して簡単なことではなく、これまで同様に今後も努力し続けないと達成できないことを共通の認識としてお持ちいただき、今後議論を進めていければと思う。